

小学校 第6学年 国語科 学習指導案

埼玉県さいたま市立大谷場小学校
教諭 望月 さお美

単元名

伝記を読んで、生き方について自分の考えをまとめよう
『津田梅子——未来をきりひらく「人」への思い』(11時間)

単元のねらい

伝記を読んで、生き方について自分の考えをまとめることができる。

本時のねらい

津田梅子の人生を年表で整理し、生き方についてまとめることができる。(第2～4時)


指導時期



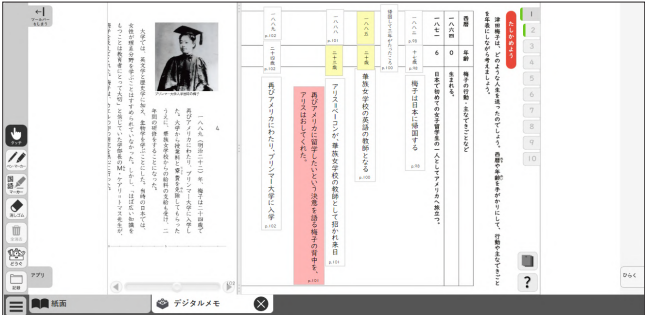
2月

指導者用デジタル教科書(教材)活用の意図・目的

本単元は、伝記を読み、自分の考えをまとめる学習を行う。文学的文章・説明的文章と比べ、人の生き方に焦点をあてた伝記は、児童の「読みたい」という意欲を引き出すことが難しい教材だと考える。そこで、「指導者用デジタル教科書(教材)」を活用することで、「ある人の伝記を読む」という意識から「伝記をとおして誰かの生き方を探る」へと意識が変化していくことに期待する。「指導者用デジタル教科書(教材)」は、教科書には書かれていない補助資料を提示したり、関連ウェブサイトにも容易につないだりすることができ、「もっと知りたい」「もっと詳しく調べたい」といった児童の目的に応じて活動を展開させることもできる。この点を生かし、積極的に「指導者用デジタル教科書(教材)」を活用し、児童の探究心を高めながら授業を展開していきたい。

本時(第2～4時)の展開

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入	<ul style="list-style-type: none"> 「指導者用デジタル教科書(教材)」の初期画面を開いてコンテンツを起動する。 <p>前時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 初読の段階で気になったところ、注目したところ(部分)をチェックした。 伝記のよさを伝え合い、伝記を読むことの必要性について考えた。 これまでの自分自身の生き方との相違点を意識して話し合った。 	 <p>「さし絵」の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 7歳頃の津田梅子の写真と成人した津田梅子の写真を比較し、どのような人生を送っていたのか予想したり、自身の姿と比べたりする。

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入	<p>本時の課題を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 津田梅子の伝記を読んで、津田梅子の年表を整理し気づいたことについて話し合うことを伝える。 	 <p>7歳ごろの梅子 (ワシントンD.C.にて)</p>  <p>津田梅子 (1864年 - 1929年)</p>
展開	<p>教科書を読み、西暦が書かれているところを四角で囲み、その年の津田梅子の行動や、主なできごとなどがわかるところに線を引く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 活動の進め方や活動形態は、児童が決める。(1人・ペア・グループ・先生など) <p>年表に整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 児童から出た意見や考えを取り上げ、伝記と関連させるために年表にまとめる。 ● 伝記の内容を年表に整理しながら、津田梅子の魅力について改めて気づいたことや考えたことをメモしておく。 	<p>「デジタルメモ」の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 本文に書かれている西暦や年齢、主なできごとを抜き出す。 ● 本文に書かれていなくてもわかるもの(津田梅子の年齢など)は色を変えた「ふせん」を提示する。 ● できごと以外にも、津田梅子の人生を読み取る上で重要なところを抜き出し、色を変えて示す。 
まとめ	<p>整理した年表を見て気づいたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 津田梅子の活動が昨今の教育にどのように影響しているかを確認する。 ● 伝記のよさや必要感について改めて確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「デジタルメモ」を見て、人の人生には、たくさんのできごとがあり、それらがその後の人生にどのように影響していくかということについて、考えを深められるようにする。 ● 線を引いた自分の教科書と「デジタルメモ」を見比べ、自分の考えと友達との考えの相違点を見つけられるようにする。

指導者用デジタル教科書(教材)を活用したことで得られた効果

本時の学習は、「指導者用デジタル教科書(教材)」の「デジタルメモ」を活用した授業展開である。「デジタルメモ」を活用することで、教科書本文の抜き出しが容易になったり、抜き出しだけでは足りない部分を書き加えたりすることができる。

これからの学校教育では、答えが決められているものを児童に問い、その答えを指導者が示したり確認したりするだけの授業ではなく、児童自身が自らの学びを調整しながら課題に取り組み、考えを広げたり、深めたりしていく展開が重要である。「デジタルメモ」の活用により、教科書の叙述にそってしっかり内容を捉えつつ、叙述にはない空白の部分や読み取りで補える部分を書き加えたり、メモをつけたしながら自分の考えを広げたり深めたりするなど、目的に応じた学習活動の展開を効果的に行うことが期待できる。